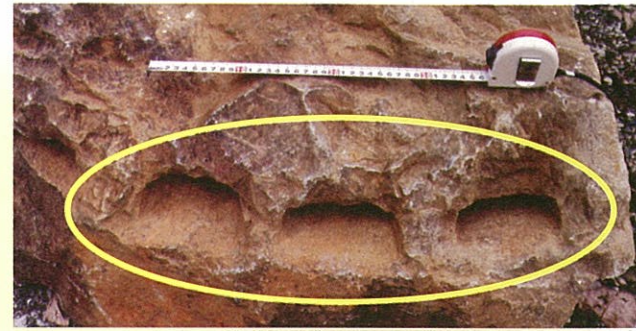


石工の技術と道具

～「矢穴」に残された石工の技～

石垣修復工事に伴う調査で、半月状の穴が残されている石材が見つかりました。「矢穴」と呼ばれるこの穴は、手道具と自らの腕一つで石垣を築いた石工たちの技の痕跡です。矢（石を割る時に用いる鉄製くさび形の道具）で石を割るには、石面にノミやタガネで矢穴を開けなければなりません。矢穴が大きすぎると矢を叩いても力がそれ、小さすぎても叩きが効かなくなり石が割れなくなります。矢先がきっちりと矢穴にはまって始めて叩きの効果があります。大石を割る場合は、いくつもの矢穴を掘りますが、一瞬にして力が均等にかからなければ石は割れません。矢穴の底を平らにし、深さをそろえるなど長年の経験と繊細な技術が不可欠なのです。



「矢穴」が残っている石材



現代の石工 黒田虎雄氏（青葉区在住）

関係略年表

藩主	和暦	西暦	月日	主な出来事	☆主な絵図の制作年
	天正19	1591	9.23	米沢から岩手沢（岩出山）城に移る	
初代 政宗	慶長 5	1600	11.13	徳川家康より仙台城普請許可される	
			12.24	政宗、千代（せんだい）を仙台と改め、城普請の縄張りを行う	
	6	1601	1.11	仙台城の普請を開始する（築城開始）	
	7	1602	4.14	政宗、未竣工の仙台城に入る	
	8	1603	8.	政宗、仙台城に移る	
	15	1610		仙台城本丸大広間が完成する	
	元和 2	1616	7.28	地震により石垣・櫓が被害を受ける	
二代 忠宗	寛永 13	1636	9.21	五郎八姫（政宗の長女）帰仙し、西屋敷に入る	
			5.24	政宗、江戸桜田邸で死去、忠宗二代藩主となる	
	寛永 15	1638	9. 4	二の丸の普請を開始する	
			6.25	二の丸がほぼ完成する	☆「奥州仙台城絵図」正保2・3年（1645・46）
正保 3	1646	4.26	地震により石垣が崩れ、櫓が倒壊する		
		万治 1	1658	7.12	忠宗死去
三代 綱宗	万治 3	1660	8.25	綱宗隠居	
四代 綱村	寛文 8	1668	7.21	大地震、仙台城本丸石垣が崩れる	☆「仙台城下絵図」寛文4年（1664）
			9.15	仙台城石垣普請許可される	
	延宝 6	1678	8.17	地震、東照宮・瑞鳳殿・感仙殿・祠堂が被害を受ける	
					☆「奥州仙台城 井城下絵図」天和2年（1682）
	天和 3	1683	5.21	仙台城本丸修復成る	

※出典は「貞山公治家記録」、「伊達家文書」、「義山公治家記録」、「肯山公治家記録」による

国史跡指定記念

仙台城展

～政宗が築いた仙台城～



◆主催：仙台市教育委員会

はじめに

初代仙台藩主伊達政宗によって仙台城が築城されてから400年余りを経た本年8月、仙台城跡は国史跡の指定を受けました。仙台市内には他に5つの国指定史跡がありますが、仙台城跡はその中で最大の規模です。戦前からの研究成果に加え、石垣等の保存状態が良好であることや、築城期の石垣が確認されたことから、わが国の近世を代表する城跡として高く評価されたものです。今回の文化財展では最新の調査成果をふまえながら、政宗が築いた仙台城の実像に迫ります。



仙台城跡航空写真（南より・赤枠が指定範囲）
※御裏林には、本丸の水源「御清水」や城の守りを固める3本の堀切があります。

☆仙台市内にある国指定の史跡は？



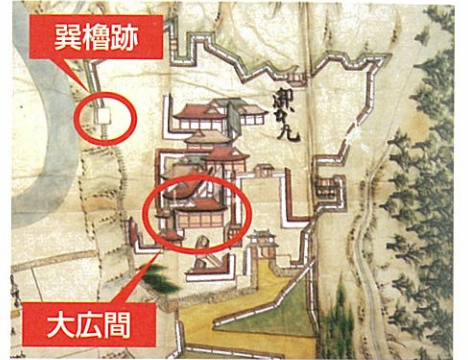
遠見塚古墳（若林区）

他には、**いわきりじょう** 岩切城跡（宮城野区）
むつこくぶんじ 陸奥国分寺跡（若林区）
むつこくぶんじ 陸奥国分尼寺跡（若林区）
はやしへい 林子平墓（青葉区）があります。

本丸跡に迫る

関ヶ原の戦い直後の慶長5年（1600）12月24日、初代藩主伊達政宗は仙台城の縄張りを開始しました。本丸は東西245m、南北に267mと諸大名の城郭の中でも最大級で、築城後間もなく仙台を訪れたイスパニア（スペイン）の使節ビスカイノは「この城は日本で最も優れ、最も堅固な城の一つ」と賞賛しています。

ここでは、明らかになってきた仙台城本丸跡を紹介します。



「仙台城下絵図」寛文4年（1664）
〈宮城県図書館蔵〉

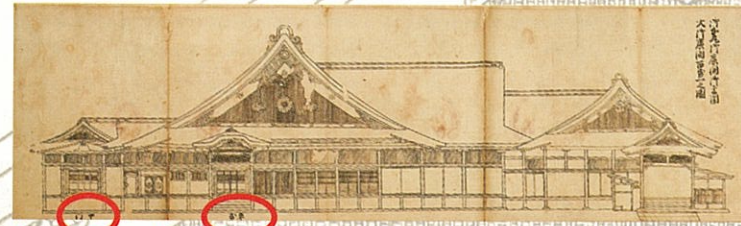
明らかになりつつある大広間の姿

本丸跡の北部に位置する大広間は本丸御殿の主要な建物で、藩の政治や儀式の場でもありました。慶長15年（1610）に完成したと考えられ、俗に千畳敷と呼ばれますが、畳敷き部分と縁側を含めて約430畳にも及ぶ大規模な武家御殿建築であったと伝えられています。

これまでの発掘調査では、建物の礎石跡や建物の軒下を巡る石敷きの雨落ち溝跡の発見により、その規模（東西幅約33.5m）や、東・西辺部の建物構造が分かってきました。また、調査成果と絵図を比較すると、北西部分の形は江戸時代の仙台藩の大工棟梁千田家に伝わる姿絵図に描かれている中門から車寄にかけての一角と発掘調査成果がほぼ一致していました。



大広間跡北西部



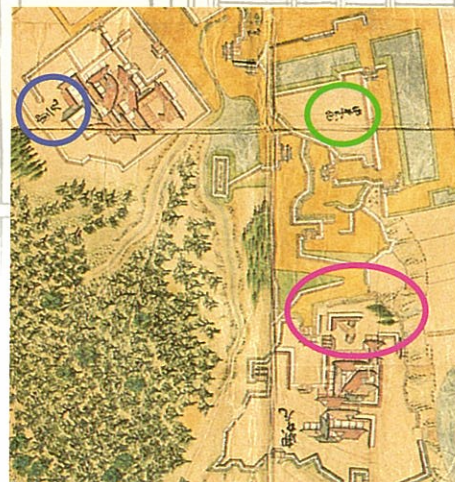
「仙台城及び江戸上屋敷主要建物姿絵図」(大広間部分)
江戸時代〈仙台市博物館蔵〉
*建物の両側を前面に展開し描かれています
この見開きページの下絵に使用しています

絵図から見る仙台城の変遷

本丸部分を主な絵図で比較してみると、正保2・3年（1645・46）の「奥州仙台城絵図」(表紙)にある櫓が以後のものには描かれていません。また、寛文4年（1664）の「仙台城下絵図」と天和2年（1682）の「奥州仙台城并城下絵図」とでは石垣の形状が異なって描かれています。これらの違いは地震によって石垣や櫓が崩壊し、石垣が修復された仙台藩の記録と合致します。

二の丸部分では「奥州仙台城絵図」で描かれている西屋敷が「仙台城下絵図」には描かれておらず、二の丸が西屋敷を取り込んで拡張されたと考えられています。

三の丸部分は「奥州仙台城絵図」で「蔵屋敷」と表記されていますが、「仙台城下絵図」では「御米蔵」、
「奥州仙台城并城下絵図」では「東丸」と曲輪の名称が変化しています。曲輪の使用状況や城内での位置付けに変化があった可能性も考えられています。



「仙台城下絵図」
寛文4年（1664）〈宮城県図書館蔵〉



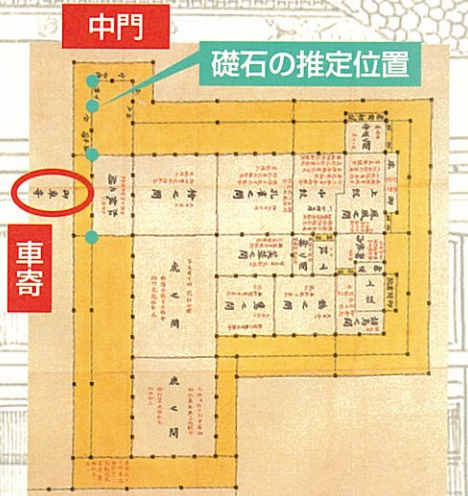
「奥州仙台城并城下絵図」
天和2年（1682）〈宮城県図書館蔵〉

- 本丸北面石垣部分
- 二の丸部分
- 三の丸部分 西の丸出現に対応して、名称が「東丸」と変更になったと考えられます。
- 西の丸 「奥州仙台城并城下絵図」から描かれるようになりました。

華やかな大広間を物語る金銅金具

大広間跡からは金属製品・陶磁器・瓦などが出土しました。その中には18点の鍍金（金メッキ）された金銅金具や約300点の銅釘があります。金具にはいねいにノミで、菊唐草や牡丹などの文様が彫られており、これらは、本丸御殿の垂木の先や大型の釘隠の一部などに使用されていたと考えられます。

安永4年（1775）に家臣の安部彦右衛門が大広間の様子を記した「御本丸拝見覚書」には、大広間上々段の間に「金鍍金具」があったとあり、当時の華やかな姿が想像されます。



「旧御本丸御屋形図」(大広間部分)
明治26年（1893）写
原本 明和4年（1767）〈仙台市博物館蔵〉



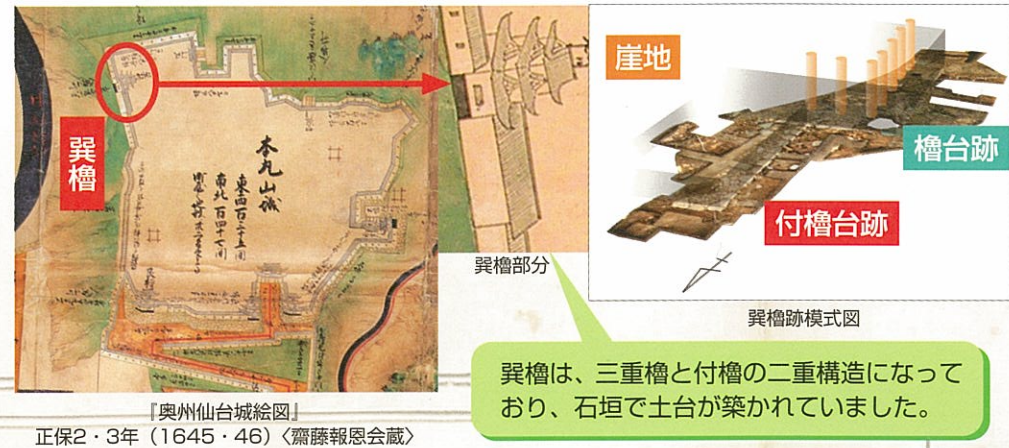
金銅金具釘隠片（牡丹・葉文）



金銅飾金具（菊唐草文）

遺構からわかる巽櫓の様子

巽櫓は本丸跡の南東部に位置し、築城期に存在した4基の三重櫓の1つと考えられています。仙台城を描いた最も古い絵図である「奥州仙台城絵図」(正保2・3年、1645・46)によると、入母屋造りの瓦葺の屋根を有し、北側に付櫓と見られる平屋建物が描かれています。伊達治家記録によると正保3年4月26日(1646)に地震があり「三階の亭櫓三ツ顛覆し…」と記されており、その後の絵図には櫓の描写がないことから、この時の地震で倒壊し、再建されなかったと考えられます。



巽櫓は、三重櫓と付櫓の二重構造になっており、石垣で土台が築かれていました。

発掘調査の結果、櫓の南東部分は崩落等で失われており、現在は崖地になっていることが判明しました。しかし、三重櫓の北西角から南西角にかけての石垣や付櫓北西角から西辺の石垣などが確認され、櫓台は南北約10.2m、付櫓台は南北約7.8m、東西約5.7mの規模であることが分かりました。

遺物が物語る巽櫓

巽櫓跡からは、瓦・金属製品などが出土しました。瓦片は約26,000点、総重量で約2.8tと大量に出土しました。また、直径・重量ともにほぼ同じ大きさの金属製の玉(弾)が2点並んで出土しました。大鉄炮(30匁=112g程度の玉を使用)もしくは、手持ちの大筒(100匁=375gを超えるの玉を使用)の玉(弾)で、江戸時代初期のものである可能性があります。櫓は弾薬などを収蔵した武器庫として使用されることもあり、今後の検証が必要です。



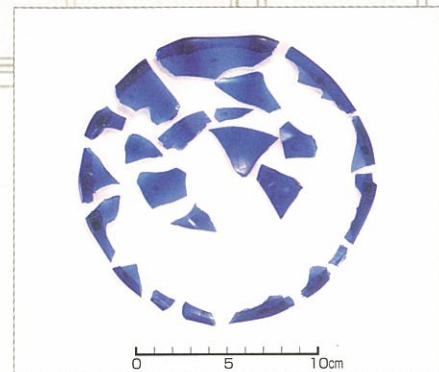
瓦片出土状況



2点の炮弹 サビ落とし前(293g) 後(274g)



金箔押菊丸瓦



ヨーロッパガラス器

石垣修復工事に伴う本丸跡の調査

本丸跡の石垣修復工事に伴う発掘調査で、3時期にわたる石垣の変遷を確認でき、政宗が築いた石垣は現在見られる石垣とは大きく異なっていたことが明らかになりました。また、Ⅲ期石垣の内部や基部からは、金箔瓦や陶磁器片、ガラス器片などの貴重な遺物が多数出土しました。これらは地震で破損し、新たに石垣を築く際、石垣の盛土の中に埋め込んだり、廃棄していたと考えられます。全国で最北の出土例となった金箔瓦は、仙台城が黄金で飾られていたことを、また、中国産陶磁器やヨーロッパ産ガラス器は、仙台藩の海外との貿易や交流を示すものと考えられます。

政宗とその子どもたちの屋敷

二代藩主忠宗が二の丸を造営する以前は、政宗の四男宗泰の屋敷とその北隣に長女五郎八姫の屋敷(西屋敷)がありました。正保2・3年(1645・46)の「奥州仙台城絵図」に描かれている西屋敷跡からは、庭園のある礎石建物跡が発見されました。四男宗泰の屋敷跡からは、南蛮人の形の陶器や唐津の向付などの陶磁器をはじめ、各種の遺物が大量に発見されています。

三の丸地区には、政宗の「下屋敷」が存在していたと考えられています。発掘調査により、池跡や屋敷跡、茶室と推定される礎石建物跡などが確認されました。茶室のそばからは高級な国産茶器(美濃伊賀水指など)や、伊達家の家紋三引両入りの漆器などが多数発見されており、政宗が別荘のような性格としてこの地を利用していたと考えられています。



西屋敷の建物跡 (東北大学埋蔵文化財調査年報6より転載)



二の丸跡出土品 志野焼 南蛮人の形の陶器 高10.6cm (東北大学埋蔵文化財調査年報8より転載)

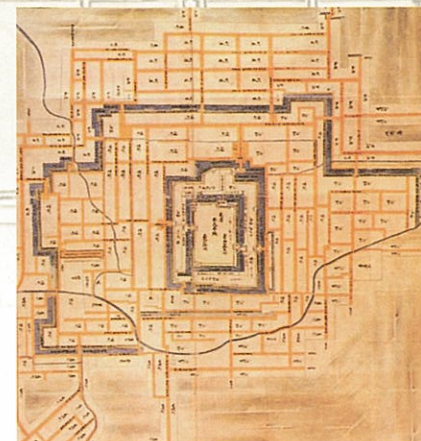


三の丸跡出土品 美濃伊賀水指 高19.7cm

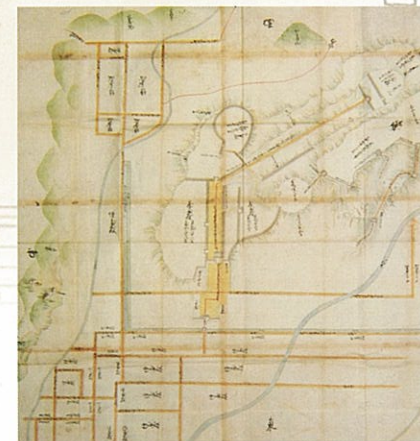
水指は茶道の道具です。茶碗をゆすぐ水や、釜に足すための水を入れておきます。

政宗ゆかりの城

永禄10年(1567)、米沢城に生まれた政宗は、この城を拠点に畠山・相馬・佐竹氏などとの戦いに明け暮れつつ、現在の福島県中通り地方に勢力を広げていきました。天正17年(1586)政宗は蘆名氏を滅ぼし、南奥羽の覇者となりましたが、それもつかの間、全国制覇目前の豊臣秀吉の命に叛いたとして会津を没収され、岩出山に国替えとなります。この間、政宗は中央の様々な文化に触れ、仙台開府への準備を進めていきました。また、市内には政宗が仙台城完成までの間、上杉氏攻めのために居住したとされる北目城や、政宗が晩年を過ごし、没後廃城となった若林城があり、近年の発掘調査でその姿が明らかになりつつあります。



出羽国米沢城絵図 (国立公文書館蔵)



岩出山城絵図 (仙台市博物館蔵)



若林城跡航空写真(若林区・現宮城刑務所)